

北区

【児童・生徒数】
19,401名

【学校数】
46校

【北区の特色】

由緒ある桜の名所、子供たちが元気に遊べる公園、荒川をはじめとする四つの河川の水辺など、様々なやすらぎの空間がある地域である。



【課題・改善】

- ・運動の苦手な子どもも一緒に楽しめる運動（遊び）を更に充実させる。
 - ・運動経験が少なく、スポーツを親しむ意識やチャレンジする姿勢を更に高める。
- ⇒外部人材を活用した出前授業の実施により、体を動かすことの楽しさやチャレンジする姿勢の大切さ等を学ぶ機会を保障する。
- ⇒指導者対象のプログラムを充実させ、指導者の指導力を向上させる。

目標 「体育の授業は楽しいと思えますか。」「運動やスポーツをどのくらいしていますか。」「授業以外でも運動やスポーツをもっとしたいと思えますか。」「運動やスポーツをすることが好きですか。」「運動やスポーツをみるのが好きですか。」で「思う・やや思う」、「好き・やや好き」と回答する児童・生徒の割合の増加

【成果】

- ① 体力合計点が中学校第2学年男子を除き、東京都の平均を上回った。
 - ② 令和4年度と比較して、次の点で向上が見られた。
 - ・運動やスポーツをもっとしたいと思う、「やや思う」と回答した児童の割合
 - ・運動やスポーツをすること・みるのが好きと回答した児童の割合
 - ・運動やスポーツをすること・みるのが「好き」、「やや好き」と回答した生徒の割合
- ※ 令和5年度東京都統一体力テストより

【実態・課題】

- ・運動が「好き」、「やや好き」と回答する割合は学年が進むにつれて減少
 - ・運動をする子どもとしない子どもの二極化傾向
 - ・運動とかかわる時間をもちたいと思う子どもの減少
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により、運動機会の減少やけがの増加傾向
- ⇒○東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを引き継ぎ、「する、みる、支える、知る」のスポーツとの多様な関わり方の更なる促進
- 授業や学校行事に限らず、放課後等を利用した運動・スポーツに親しむことができる機会や場の設定
 - 外部人材を活用した授業や交流を中心とした授業の実施

【取組】

- 10の拠点校が、
- 「巡回スポーツプログラム」
 - 「日本サッカー協会公認指導者ライセンス保持者による指導体験プログラム」
 - 「スポーツプログラム指導講習」
 - 「試合の観戦」
- の4つのプログラムから選択し、合計5回実施する。
- ※ 網羅的に実施するのはなく、1つのプログラムを複数回行ってよい。

【取組（詳細）】

○ 巡回スポーツプログラム

「サッカー教室」、「スポーツなかまづくり教室」、「おもいやりパラスポーツ教室」、「チームビルディング教室」を各校園の実態や発達段階に合わせて、実施しました。



サッカー教室



思いやり
パラスポーツ教室



スポーツなかまづくり教室



○ 日本サッカー協会公認指導者ライセンス保持者による指導体験プログラム

部員の身体能力に合わせ、必要なトレーニングメニューが生まれ、実践しました。ゲーム形式の練習では、動画に撮り、自分たちのゲームを客観的にみることで弱点を分析し、それに合わせた練習を組み立てるなど、チームにとって効果的な練習メニューの組み方の指導を受けました。



指導体験プログラム

○ スポーツプログラム指導講習

小・中3校の教職員対象に、スポーツ指導者向けのプログラム研修を実施しました。各校の教員は運動着で終始楽しく体を動かして、仲間づくりからボッチャやゴールボールなどの障害者スポーツ等を体験し、指導方法の習得の機会となっただけではなく、とてもよい学校間交流の機会となりました。



スポーツプログラム
指導講習

○ 試合の観戦

令和6年1月8日（月）、北区内にある「味の素フィールド西が丘」で行われたWEリーグ公式戦「日テレ・東京ヴェルディベレーザ 対 INAC神戸レオネッサ」を、希望した幼児・児童・生徒とその保護者が観戦しました。



試合観戦プログラム

